

1月のイベント

ボクもワタシもミュージカルスター！ 子どもミュージカル体験事業の参加者募集

- 日 時…1月5日(日)～11日(土)
【レッスン等】5日(日)～10日(金)
10時～16時
11日(土) 9時～22時
【発表会】11日(土) 18時～19時
- 会 場…湧別町文化センターTOM
- 対 象…町内及び近隣在住の小学1年生～中学3年生
定員30名程度
- 演 目…「関ヶ原は今日も雨だった」
舞台は昔、大きな戦のあった関ヶ原にある廃校寸前の学校の運動会。運動会が進むにつれ、生徒や先生に異変が…。なんと!? 戦国武将たちが乗り移って…。
- 参加料…800円(スポーツ安全保険掛金)
- 申込み…【湧別町民の方】
申込期間：11月29日(金)まで
(小中学校・義務教育学校を通じて配布した申込書によりお申込ください。すでに申込期間が終了していても、定員に達していない場合は受入可能ですので、下記までご連絡下さい。)
【湧別町以外近隣の方】
申込期間：12月2日(月)～10日(火)
(下記問い合わせ先にご連絡ください。先着順により申込書を送付いたします。)
- 問い合わせ先…湧別町教育委員会社会教育課
(Tel01586-5-3132)

今回で10回目を迎える当事業は、埼玉を拠点に活動しているプロの劇団「劇団鳥獣戯画」の皆さんに冬休みの1週間レッスンしていただき、最終日にその成果を発表するというものです。6日間の練習で見違えるように成長する子どもたちの姿に毎回驚かされます。目まぐるしく進むストーリーにそれを彩る歌とダンスが見応えの発表会は一般の方も無料で見る事ができますので、是非お越しください。



埼玉県入間市での公演の様子

神秘の刻 山彦の滝ナイトツアー

- 日 時…1月11日(土)・25日(土) 17時～18時
2月 8日(土)・15日(土) 17時30分～18時30分
3月 7日(土) 17時30分～18時30分
- 集 合…やまびこ温泉(遠軽町丸瀬布上武利)
- 参加料…小学生 1,000円
中学生以上 1,800円
※ガイド料、やまびこ温泉入浴料、食事代、保険料含
- 定 員…各日40名
- 問い合わせ先…遠軽町丸瀬布総合支所 産業課 (Tel0158-47-2213)

北海道の厳しい冬を物語るように、辺り一面原始林に囲まれた中で創り出される造形美、氷柱の「山彦の滝」を色とりどりにライトアップします。



厳冬!! 山彦の滝観察会



- 日 時…1月26日(日) 9時～12時
2月 9日(日) 9時～12時
- 会 場…丸瀬布昆虫生態館、山彦の滝周辺
- 参加料…小学生 1,100円
中学生 1,400円
高校生以上 1,600円
※昆虫生態館入館料、温泉入浴券、昼食補助券、保険料含
- 定 員…各日30名
- 問い合わせ先…遠軽町教育委員会 丸瀬布教育センター (Tel0158-47-2456)

冬の大自然を越冬する小動物や蝶の卵、運が良ければオジロワシの生態等も観察しながら、高さ28mから打ち落される氷柱の滝を目指して、冬のトレッキングを楽しみます。自然が生み出す神秘的な姿を是非ご覧ください。

2月のイベント

サイエンスキャラバン in サロマ

- 日 時…2月16日(日) 10時～13時
- 会 場…佐呂間町町民センター
- 入場料…無 料
- 問い合わせ先…佐呂間町教育委員会 (Tel01587-2-1295)

見て、触って、感じて、作って…驚きと発見の連続間違いなし! 子どもから高齢者の方まで誰もが楽しめる科学の実験・工作が盛りだくさん。不思議がいっぱい体験できる科学の世界を楽しみましょう。
また、当日サイエンスキャラバン会場の駐車場では「かまくら雪まつり」も開催されています。



第35回記念 湧別原野オホーツククロスカントリースキー大会

- 日 時…2月23日(日)
- 会 場…遠軽町・湧別町 湧別川流域特設コース
遠軽町白滝天狗平～湧別町中湧別中町
- コース…湧別原野コースほか5コース、スキー駅伝
- 参加料…コースごとに異なりますので、詳しくはお問い合わせください。
35回記念大会として小中学生が無料となります。(駅伝除く)
- 申込み…12月2日(月)～1月17日(金)
- 問い合わせ先…湧別町商工観光課
(Tel01586-2-5866)



今回で35回の節目を迎える国内最長(80km)のクロスカントリースキー大会。オホーツクの自然を満喫しながら、初心者から上級者まで楽しむことができる大会です。

特集記事 遠軽地区の開拓

今回から不定期連載となりますが、遠軽地区の開拓をテーマに特集を行います。それぞれの町では当時どのような開拓の苦労があったのか、特徴的な出来事や当時の様子を掲載していきます。第1回目は佐呂間町の出獄者の更生の場としての開拓、湧別町の屯田兵が入植した当時の服装について紹介します。

佐呂間町 ^{そび}「聳え立つ蝦夷松の墓標」 上伊澤 洋

留岡幸助が、遠軽町社名淵に少年感化院「北海道家庭学校」を創設したと同じ大正3年春、佐呂間村にも、湖に面した斜面260町歩の無償払い下げを受けて、15名の出獄者を伴いやって来た男がいた。

留岡と同じクリスチャンの相川勝治で、出獄者達の更生と社会復帰を目的に、博愛職工学会を立ち上げて、富士の北向きの荒野を開墾し農場経営を目指した。しかし、実績と名を残した留岡と異なり、今はその名前や、更生農場の存在すら知る人は少なく、町史にも数行記載されているに過ぎない。

平成6年、佐呂間町は開基100年を迎え「郷土研究会」で「開拓秘話」を1冊にまとめることになった。その時に初めて相川勝治の名を知り、その前歴が更生保護事業の代表として異色であるらしいことに戸惑い、また興味もわいた。古老からの聞き取りでは、事務所兼住居は「相川御殿」と呼ばれ、ピアノが置かれた礼拝堂と、奥には熊皮が敷かれた仏間があり、妾と本妻とが同居し、従事者の逃亡を防ぐためか腰縄を着けて移動、本人の粗暴な行動など、クリスチャンらしからぬ話ばかりで、評判はすこぶる悪く、当時、「殿様勝治」という相川勝治を描いた講談雑誌が発刊され、詳しい前歴など書かれていたというが、探し出せず残念に思っていた。ところが昨年、知人の新聞記者から、その21ページに及びコピーが手に入り、長年、気になっていた勝治の謎を知ることになる。

勝治は大分県生まれで警部でありながら極悪な犯罪を繰り返し、最後に収監された大阪監獄を出獄後、山口県秋吉村で大理石採掘を行いながら出獄人更生事業に身を捧げていたクリスチャンの本間俊平に預けられ、その生き方に感銘し洗礼を受け、自らも出獄者の保護事業に取り組む決意をする。本間らの庇護をうけて大阪で「博愛職工学会」という組織を立ち上げ、その後、佐呂間の地にやって来た事になるが、勝治の犯罪歴は、「強盗36回、傷害11回、窃盗490余回、入獄8回通算16年8か月、脱獄2回」と凄まじいものだった。雑誌が発刊されたのは、勝治がやってきた直後で、これを読んだ村民は勝治の前科に怖れを感じ偏見を持って接したに違いなかった。勝治は大正11年、60歳で死去し「相川御殿」も火事で焼失、学会はその数年後に解散、土地は売り払われ親族や入植者の多くはこの地から去って行った。

学会の建物があつた場所から100メートルほど傾斜を上り幹線道路を越えた地所に富武土神社があり、その横の畑の真ん中に、1本の蝦夷松が伐り倒されずに残されているが、この樹が勝治の墓標だという。

冬、この道に車を走らせると、サロマ湖から吹き上げる強い北風が雪を巻き上げ、ホワイトアウトに遭遇することがよくある。

勝治はこの凍てつく地で、救いの光を見いだせたのだろうか。白い闇から抜け出せずにあがきながら果てて行った様に思えてくる。

湧別町 「屯田兵の開拓～当時の服装ついて～」

湧別地区の特徴のひとつである屯田兵の開拓について、町では昭和40年頃、屯田兵やその家族にインタビューをしました。その記録から、特に開拓当時の衣について紹介します。

まずは、湧別屯田家族として愛知県から入植した松野マサノさんの証言です。

聞き手 「その頃は、着物の袖はどうですか。」

松野 「袖は、スッポにしてやったです。」

聞き手 「京都の方、上方の方は、何か長袖をたすきにかけてやったと言う事ですか。」

松野 「そうです。わたしらそうだったんですけど。それからそういう袖は、虫がくうからと言って、長袖をスッポにしてな。今もうあんな袖しないけど。小さな袖にしてな虫が喰わん様にしていたけど……」



開拓初期は本土から持ってきたものを着ていました。しかし、上記のように湧別の環境に合わせてスッポ＝筒袖にしていたようです。下半身の衣については、屯田兵家族として岐阜県から入植した山田キクエさんの証言があります。

「そうじゃ。皆んな習ったもんじゃ。ちゃんときんかくしつけてね。ここのまわしにきちんと合わせて、わし、ここの姑さん大工じゃったから、すぐ股引はいてた人じゃからね。だから、ここへ来てやっぱり、股引の上手な人があつたわね。その人に習って、そして、ぬって、はいたさね。それから佐太郎という人（戸主の弟）も、股引をはいた。モンペは、なに男は、はきゃせんし、ほかに何もはくもんないものね。今みたいに、ズボンがあるんじゃないし、その股引なら習っては、何枚も裁ったな。人のも裁ってやった事あるさ、へたでも。」

そして、前述の松野マサノさんは下半身の衣については、

「わたしら愛知県なもんで、モンペはくこと知らなかつたなあ。仕事する時は、普段着をちょっと短くし、膝（ひざ）かぶの下ぐらゐまでにして、脚絆（きゃはん）をはいてなあ。だから夏はブヨに食われるし、冬は晩かたになると裾（すそ）に雪が凍り付いてコンコロコンになりましたなあ。娘たちは袂（たもと）に赤い襷（たすき）をかけて新墾したもんですよ。袂をたくし上げるもんだから、腕を虫に食われてなも。ひどい時には、くわれた跡がおできになってな、医者に行ったこともあるな。私なんか姉さんに、そうやって畑に行けと言われましたなも。それから、こんなことでは、とつても虫に食われるから、こんな袖（そで）ではだめだと言って、筒袖（つつそで）に縫い直して着たもんですのう。初めは山形県の人、モンペ姿を笑っていたんですけど、あとからはみながはくようになりました。早くからはいたら虫なんか食われんかつたのにな、と笑ったもんですなも。」と証言しています。

男性は股引、女性はモンペを着用していたようです。これらの証言や当時の写真などから開拓期の男性の服装を再現すると上記イラストのようになります。手製で動きやすさを重視した服装がみえてきます。

なな・なんと情報に掲載希望の情報を募集いたします。遠軽地区全体にお知らせしたい情報がありましたら各町教育委員会（教育センター）までご連絡ください。発行は偶数月で年6回を予定しています。ただし、営利・宗教・政治を目的としたものは掲載できません。また紙面の都合上、掲載できない場合もありますので、ご了承ください。

☆湧別町教育委員会……TEL01586-5-3132

☆佐呂間町教育委員会……TEL01587-2-1295

☆遠軽町教育委員会……TEL0158-42-2191

☆遠軽町生田原教育センター……TEL0158-45-2010

☆遠軽町丸瀬布教育センター……TEL0158-47-2456

☆遠軽町白滝教育センター……TEL0158-48-2213

※この情報紙に関することは、各教育委員会（教育センター）へお問い合わせください。

■総合窓口：メールアドレス shakyo@town.yubetsu.lg.jp （令和元年度担当/湧別町教育委員会）

